

生徒に人気 インターネット授業

文部・通産省 プロジェクト 小・中・高校など111施設で本格始動

最近はやりの国際通信網「インターネット」を教育に活用するプロジェクトが、全国の小中高校など百十一の学校・施設で本格的に動き始めた。パソコン通信で望みの情報を探したり、他校と電子メールを交換したり……。中には、酸性雨の広域調査に同ネットワークを生かす本格派も。学校の枠を越えた「ネット授業」の面白さが、生徒を引きつけている。

(高野義雄)

「手紙は、鉛筆よりパソコンで書いた方が面白い」
「この前、パソコンで手紙を出したらその日のうちに沖縄から返事がきて、郵便より便利だった」

横浜市立本町小四年の社会科授業を、ある日のぞかせてもらった。パソコンを前に子供たちの目が輝き、声が弾む。

「北海道と沖縄のどちらに住みたいか」との素朴な問いをきっかけに、各地の生活ぶりを調べている。この授業で使えるパソコンは十台ほど。児童二、三人がひとつの画面を見ながら操作し、インターネット経由で札幌市や沖縄県が提供している情報コーナーの「ホームページ」などを自由に検索し、気候や生活習慣の特徴など情報を収集。先生の助けを借りて、札幌市や那覇市の小学校へ電子メールで問い合わせもする。

だが、問題がないわけではない。担任の出口和生教諭は「インターネット上の情報は現状では大人向けが



パソコンでインターネットに取り組む小学生(横浜市立本町小で)

多く、小学四年生にとっては従来通り本で調べた方がわかりやすいものが多い。中学、高校なら英語教育に役立つのだろうが……。今後は小学生同士が、ネットを通じて情報交換できるこ

電子メール、テレビ会議で交流

39校連携、酸性雨調査も

とが「楽しみ」と話し、インターネットの有効な使い道を探っている。

この通称「百校プロジェクト」は文部、通産両省が十六億五千万円を投じて、昨年度からの三年計画で始めた。応募した全国千五百四十三校から、小学十八、中学二十九、高校四十に視聴覚センターなどを加えた合計百十一施設に絞られ、配備されたパソコンと通信機器を使って、それぞれに利用方法を競っている。

酸性雨調査は、広島大付

属福山中・高校が発案した企画で、参加を申し込んだ全国三十九校に、十月中には測定機器が設置され、生徒が今後二年間、各地の酸性度を測定する。広島大総合科学部が指導し、データ集計と結果の公表はインターネット上で行われる。複数の学校で、生徒の

全国に広がるインターネット利用の学校・施設(●)



身の回り品の値段を比較する共同市場調査や、「いじめ」などを議論するネットワーク会議も計画中だ。

しかしインターネットは、日本で研究者以外に門戸開放されてからまだ二

テレビ会議や電子メールの輪を海外に広げる計画だ。担当の宮沢賀津雄教諭は「インターネットの使い道は様々で、教師が考えたテーマを押しつけたくない。教師より頭が柔軟な生徒の方が慣れるのも早く、賢い利用法を見つけては」と生徒の自主性に期待する。

年。企業も一般利用者も使い道を探っている段階で、試行錯誤の悩みは教育現場でも変わらない。

た。生徒らは自己紹介のあと、今後のインターネットの使い方などについて話し合い、三元生中継を楽しんだ。アルゼンチンから四年前に帰国したスペイン語のわかる生徒もあり、今後は

米国では、クリントン大統領が、学校でのインターネット利用を盛んに呼びかけ、日本でもアメリカン・スクールが取り組みに積極的。パソコンは、日本でも学校に本格導入されてから十年たったが、その利用方法がここに来て大きく変わろうとしているようだ。